

とうきょうすくわくプログラム活動報告

【活動のテーマ】

自然探究 1歳児

学校法人明泉学園
鶴川フェリシア保育園
東京都町田市三輪町 122-12

【活動の設定理由】

園庭遊びや散歩の際に、自然物へ興味を示し、積極的に関わろうとする姿が見られる。学園の森へ出かけて、多くの自然と関わることで、関心を深め、探究活動へ繋げていきたい。

【環境の設定・準備】

サナギ、絵本、紙芝居、図鑑、虫眼鏡、様々な種類の蝶の表、名前シール、きんかん、きんかんの写真、みのむしの写真、クッション、ベンチ、クレヨン、クレパス、ドットマーカーペン

【活動スケジュール】

- 11月 サナギの観察、何の種類蝶になるか予想
- 12月 きんかんの観察
- 1月 虫眼鏡でみるサナギの観察、何の種類蝶になるか予想
- 2月 みのむしの観察
- 3月 公園にはどんな虫がいるか探しに行く

サナギの観察、何の種類蝶になるか予想

- ・ 保育園の窓のサナギを発見したので、そのサナギを観察することにしました。
- ・ サナギとは何か、絵本『はらぺこあおむし』を通して伝えました。
- ・ 拡大した蝶の写真をラミネートしたものを手に取って遊びました。
- ・ サナギからどんな蝶が生まれるか予想してその蝶の写真のところに名前のシールを貼りました。
- ・ 蝶の色を予



保育園の窓のサナギの下にサナギを発見



サナギの前に行きどのようなものかを、じっくり観察しているところです



『はらぺこあおむしの』の絵本を通してサナギがどのように羽化して蝶になるのかを知ることができました

- ・サナギを初めて見る子がほとんどだったため、見えている位置であっても「見えない」と言い、サナギを識別できない様子がありました。
- ・『はらぺこあおむし』の絵本を見て、絵本に出てくるサナギが蝶になったことを再度伝えるようにして、蝶の予想に繋がりました。
- ・どんな蝶が生まれるか、さまざまな蝶の写真を見たり、触ったり、動かして、思い思いに遊ぶ姿がありました。
- ・蝶の写真で遊んだ時とは違う蝶が生まれると予想してシールを貼る子がいました。

きんかんの観察

きんかんの木の下で、実を手に取り、青色だった先月の写真と、今回の実の色の違いを観察しました。実を固い場所でこすってみると、潰れた実から漂う匂いも確認できました。



実を手に取り、実が青かった時期の写真と今回の実の色の違いを比べていました。

きいろ

実際にきんかんの実の匂いを嗅ぎ、どんな匂いがするのかを確認しました。

木下のコンクリートので実をこすり、きんかんから漂う匂いや、きんかんから果汁がでる様子確認しています。



おいしいにおい



- ・実を手に取り「何色？」と問いかけると、「黄色」と答えていました。その後、保育者が匂いを嗅いでみせると、子ども達も真似をし始めました。「どんな匂いがする？」と問いかけると「おいしいにおい」と答えていました。さらに、固いところで実をこすって再び匂いを嗅いでみるように声をかけると、「いいにおい」と表現していました。保育者が「どんな味がするのかな？」「甘いかな？」「すっぱいかな？」と問いかけると、「すっぱい」と答えていました。

虫眼鏡でみるサナギの観察、何の種類の蝶になるか予想

- ・虫眼鏡でサナギの様子を観察しました。
- ・サナギからどの蝶が生まれるか予想し、蝶の写真が貼ってある予想表の蝶にどの蝶か予想し、名前のシールを貼りました。



虫眼鏡を使って、サナギを観察しています。

保育者と一緒に予想しながら、決めた蝶のところに名前のシールを貼りました。クレパスや、マーカーを使って蝶の色を塗ってみました。羽化が楽しみです



- ・図鑑を見て、どの蝶が生まれるかを探すように促すと、図鑑中の蝶を「これ」と言いながら指差し、予想する姿が見られる子もいました。
- ・虫眼鏡を使う際には、虫眼鏡と対象物の距離感がうまくつかめず、戸惑う様子が見られました。「何が見える?」「どんなふうに見える?」と問いかけても、反応が薄い様子ですね。

みのむしの観察

みのむし、みのむしの中身がわかる写真を準備しました。

散歩中に発見したみのむしが、サナギに似ていることから、サナギとの違いやみのむしの中身がどのようなになっているかを観察しました。



みのむしだよ

むし?
むし?

プランターにぶら下がっているみのむしに興味津々な様子です。



拡大した写真で、みのむしの中の虫を見ているところです。

保育者が「これ何か知っている?みのむしだよ」と言うと「むし?むし?」と言って指で触れようとする姿が見られました。その後、みのむしの中身を写真で見て観察しました。保育者が「中には黒い虫さんが隠れているよ」と言いながら写真を見せると、手を伸ばし写真に触れようとし、虫の拡大写真を見た際には「むし」と言っていました。

公園にはどんな虫がいるか探しに行く

木々や落ち葉など自然が多い公園へ出かけました。

みのむしの中にいる虫に興味を持っていたことから、みのむしや他の虫を探しに出かけました。重なった落ち葉の間をのぞいたり、どんぐりやまつぼっくりを手にとって触れたりする姿が見られました。



葉っぱやどんぐりなどの虫がいそうなところを探したり、どんぐりの殻斗を外して確認したりしています。

集めたどんぐりや葉っぱに虫はいたのか確認したり、見せ合ったりしています。

落ち葉がたくさんある場所では、葉っぱを手でめくって中をのぞいたり、どんぐりの殻斗(ぼうしのような部分)を外して中を見たりする姿がありました。見つけたものを輪になって見せ合い、みんなで楽しんでいました。また、落ち葉がたくさん集まっている場所では、大きな茶色いバッタが現れ、驚く姿も見られましたが、次第に落ち葉遊びやどんぐり集めに夢中になっていました。

なかなか羽化しない蝶。どんな色になるかを想像しながら描きました。好きな色を選びましたが、次第に色の混ざりも楽しむ姿が見られました。



【保育者の気づき】

- ・サナギをじっくり見ていました。サナギを初めて見る子がほとんどだったため、窓のサンに付いているサナギがどれなのか識別できないようでした。『はらぺこあおむし』の絵本を見て絵本に出てくるサナギが蝶になるということがわかった様子でした。
- ・きんかんの実の色の違いには気づいている子どもが多く見られました。一人が匂いを確かめるとみんなまで真似し始めました。子どもの気づきや思いを引き出すために子どもへの問いかけが大切になると感じました。
- ・虫眼鏡自体に興味を持ち、サナギを熱心に見ていた。しかし、虫眼鏡を見る際に虫眼鏡と対象物の距離感がつかめない様子が見られました。また、表を見たらうえでサナギと蝶が繋がった様子で、蝶の予想は自分でしっかりと考えて選び、シールを貼っていたように感じました。・なかなか虫は見つからず、唯一現れた大きめのバッタには怖くて近づけない様子が見られました。自然の中からサナギに繋がる何かの発見があるかもしれないと思っていましたが、子ども達は落ち葉を触ったり、舞い上げたりする遊びや様々な状態のどんぐりを集めることを楽しんでおり、自然にはたくさん触れることができたため、探究ができていたと感じました。

とうきょう すくわくプログラム活動報告

学校法人明泉学園

鶴川フェリシア保育園

東京都町田市三輪町 122-12

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然探究 2歳児

<テーマの設定理由>

園庭遊びや散歩の際に、自然物へ興味を示し、積極的に関わろうとする姿が見られる。学園の森へ出かけて、多くの自然と関わることで、関心を深め、探究活動へ繋げていきたい。

2. 活動スケジュール

- ・ 11月 「さなぎをみつけた」
- ・ 12月 「蝶々をみつけた」
- ・ 1月 「虫眼鏡でみたら」
- ・ 2月 「自然探しに出かけた」

3. 環境の設定・準備

蛹、絵本、紙芝居、図鑑、虫眼鏡、蝶の写真、

蛹をみつけた

- ・ 保育園の窓のサンで蛹を見つけたため、その蛹の観察をしました。
- ・ 蛹とは何かを「はらぺこあおむし」の絵本を見て知りました。
- ・ 蛹ポケットに入っている蛹を見ながら、どんな蝶々が生まれるかを、予想しました。

保育園の窓に蛹がやってきたので、皆で観察してみる事にしました。初めて蛹を見た子ども達は、「これなに?」と不思議そうに見つめる姿が見られました。その後は、蛹の場所を移し、保育園で育て、観察していくことにしました。



保育者から蛹が蝶々になる事を聞き、更に興味を示した子ども達でしたが、普段から認識している蝶々の姿とかけ離れている生き物に困惑している姿も見られました、また、生き物と知り、「見るだけよ。触らないよ。」と子ども達同士で声をかけあう姿も見られました。

その後、こども達は蝶々の写真を動かしたり、図鑑を見たりしながら会話を楽しんでいます。



蝶々を見つけた

- ・散歩に出かけ、蝶々を見つけました。
- ・観察をする中で、子どもたちから様々な思いが聞かれました

保育園に蛹がやってきた数日後、散歩先で蝶々を見つけました。じっと止まっていたので皆で観察してみる事にした子ども達。普段から飛んでいる蝶々を追いかけてたり、捕まえたりしようとする経験はありましたが、近くで見る機会はずっとないので夢中になって観察していました。



「何色かな?」「保育園の蝶々かな?」と話しながら、蝶々の色や羽の大きさなどを、じっくりと観察することができました。

蝶々を見て、保育園にいる蛹の事を思い出している様子が見られました。色や特徴など気付いたことを言葉にして友達に共感を求めているようでした。その後の帰り道でも、蝶々の話題は続き、「保育園の蝶々は何色に育つのだろう」という新たな疑問も子ども達の中で生まれていました。また、「いつ生まれるのかな?」「本当に蝶々になるのかな?」と探求心がどんどん深まっているようでした。

虫眼鏡でみたら

- ・図鑑や絵本に載っている自然物を見ました。
- ・虫眼鏡をはじめて使いました。
- ・蛹を虫眼鏡で見ました。

自然の生き物や植物が乗っている図鑑や絵本と虫眼鏡を用意し、子ども達が何に関心を持つのか見守っていました。子ども達は、図鑑の中に蝶々を見つけると、以前見つけた蝶々と色が異なることに気付いていました。そこで、保育園の蝶々がどのような色なのか、再び話題に上がっていたので、もう一度詳しく観察してみる事にしました。



おおきい～！



おおきい ちょうちよだ！



ちやいろだ～

虫眼鏡を使いながらいろいろな物を見ていたところ、図鑑や絵本の蝶々を発見した子どもがいました。そこで蛹の観察を始めると、子ども達から「(蛹が) ちやいろいから (蝶々も) ちやいろかな？」
「でも、えほんのはきいろだよ。」と話していました。

初めは、図鑑以外にも自由に好きな絵本を持ち出し、関心のあるものを虫眼鏡で覗きながら使い方を自分なりに考えている様子でしたが、一人が蝶々を見つけると、保育園で育てている蛹のことを思い出したようでした。その後も子ども達の中で、蛹の話題が生まれ、実際に観察を始めると、「蝶々になるのかな？」とひらひらと手を広げて蝶々の真似をする姿も見られました。

自然さがしに出かけたら

- ・散歩に出かけ、虫探しをしました。
- ・残念ながら虫は見つからず、落ち葉集めや斜面登りを楽しみました。

近くの公園へ散歩に出かけました。こども達は虫を探すと張り切っていましたが、残念ながら虫は見つからず、落ち葉遊びが始まりました。落ち葉の感触や葉がこすれる音に大喜びでしたが、次第に興味は公園内の斜面へと移りました。



斜面の上まで登れた子が見つけたものは「どんぐり」。「うえにあるどんぐりは おおきいよ。でもすこししかない」「したにあるどんぐりはちいさい。でもたくさんあるよね」と教えてくれました。

【保育者の気づき】

- ・認識していた生き物の違う姿を見て、探求心を深めている姿が見られました。
- ・継続観察を行っている「蛹」。しかし、蛹自体には変化が見られないため、当初より関心が薄くなっている子もいた。
- ・虫眼鏡の使い方等の説明はしなかったが、目にあてて様々なものを見て喜んでた。目に近づける子が多く、うまく観察できたかはわからないが、楽しさを感じることはできた。散歩にも持参をすれば良かった。
- ・少人数で活動することにより、小さなつぶやきを聞くことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告

学校法人明泉学園

鶴川フェリシア保育園

東京都町田市三輪町 122-12

【活動のテーマ】

音の探究 2歳児

【活動の設定理由】

いろいろな音を聞いたり、自分で音を出したりする中で、子どもたちの好奇心を引き出す。身近なものから新しい発見ができるような体験を通して、探求心を育てていきたい。

【環境の設定・準備】

生活の音や自然の音 手持ち太鼓(パーラック)、花の紐通し玩具 プラスチックチェーン 棒 お玉 食具の玩具、

【活動スケジュール】

1月 音の発見

2月 どんな音がするのかな？

3月 音に合わせて動いてみよう

音の発見

- ・生活の音や自然の音などじっくりと感じ取ることが出来るような場所へ出かけてみました。
- ・子どもたちが自然と音に気づけるような環境設定を行ってみました。
- ・飛行機が通る度に音の方向に目を向ける姿や、枝や石など自然物から出る音を見つけ、遊具を叩いて音を確認する姿がみられました。



ひこうきの
おとだよ



おとがする

耳を当てるとどのような音が
するのかを友達同士確認し合
っています。



ちょっと
ちがう

同じ素材のものだけではなく、
違う遊具をたたいて音
の変化を確認しています。

自ら枝や石を集め、プラスチック部分や鉄鋼部分をたたき、耳を当て音の反響を楽しむ姿が見られました。また、「なにかおとがするよ」と友達に伝え、手でたたいたり、長い枝や短い枝を探し、音を確認め合ったりする姿がみられました。「つぎはこれにしよう」とやわらかいものや硬いもので叩き、「さっきとちがう」と音の変化を伝え合う姿がみられました。

どんな音がするのかな？

・様々なものを手の届くところに置き、こども達が自由に音を出すことを楽しめるような環境を設定しました。

おもしろい



うごいてる



手持ち太鼓、花の紐通し玩具、プラスチックチェーン、棒、お玉や食具の玩具をテーブルに並べ、遊びの中で音の発見ができるよう見守りをしました。また、普段遊んでいる玩具を使うとどのような音がでるのかを探求できるように玩具を準備し活動を行いました。

初めは、規定通り太鼓をたたいて遊んでいましたが、段々と普段使っている玩具を手にし、音を確認する姿がみられました。また、音だけではなく、太鼓をたたくと伝わる振動を発見し、「なんかビリビリする」と手で振動を体感したり、玩具を置き、動きを発見している姿がみられました。

偶然床に落ちた太鼓の裏に玩具を入れ、音を発見すると、左右にゆっくり動かし「さっきとちがうおと」と友達に教え合い、少しずつ玩具を入れ、音を確認合う姿がみられました。

ビリビリしてる



次から次へと玩具を変え、一緒に音を確認合っている姿や「もっといれてみよう」等、思いついたことを言葉にして行動しています。

音に合わせて動いてみよう

・CD、ピアノなどから流れる様々な音の中で、自由に体を動かしました。

ヨガの先生と一緒に、優しい音に包まれながら体を動かしたり、動物になったり、風や空、地面を這うような動きをしたりと、表現遊びを楽しみました。

聞こえる音の音色や音量によって子どもたちの動きも変化し、またピアノのテンポを変えることで、その動きにもさまざまな違いが見られました。

りすさん



わにさんの
おくち



やさしい音楽の中で、体を思い切り動かしました



みんなで輪になり、ヨガの先生が「どんな動物を知っているかな？」と問いかけると、子どもたちは答えたい気持ちを持ちながらも、少し恥ずかしがる様子も見られました。そんな中でも保育者に助けてもらいながらヨガの先生に伝えたり、「ワニ！」と元気に答え、両手を前に伸ばして動きを表現したりする姿もありました。

また、ヨガの先生と保育者が一緒にトンネルを作ると、子どもたちは繰り返しその下をくぐり、ダイナミックな動きをのびのびと楽しんでいました。

うさぎさん



はやーい

速いテンポの音楽に合わせて走り始めました。動きや音に慣れると、手を頭の上に置いてウサギになりきっていました。

へびさんだ



によろによろ



音がゆっくりになると、寝転がり始め、ずりばいをする子どもたち。一人が「へびさん」と言うと、皆もなりきり「によろによろ」と動きを楽しみました。

ピアノの音に合わせて少しずつ身体を動かしたり走ったりしていくうちに、自由に表現を始めた子ども達。次第に動きも増え、ウサギやへび、鳥等それぞれ好きな動物に変身していました。また、中には鳴き声や動きを声に出して表現する様子も見られました。

【保育者の気づき】

子どもたちは身の回りの音に自然と興味を持ち、自ら気づき、探究しようとする姿が見られました。単に音を楽しむだけでなく、「違い」に気づき、それを友達と共有することで喜びや発見を深めていました。

大鼓など決まった音の出し方がある楽器にも積極的に取り組み、さらに身近な玩具を組み合わせることで新しい音を生み出すなど、子どもたちなりの工夫も多く見られました。

ヨガ講師による多様な曲やリズム、呼吸と連動した動きを体験することで、音の大きさや速さ、曲調の違いによって、子どもたちの感じ方や身体の反応が変化の様子が印象的でした。音に合わせて自然とポーズや動きを変化させる姿から、音と心、身体のつながりを感じ取っていることがうかがえました。

活動を通して、保育者が予想しなかったような動きや表現が多く見られ、子どもたちが主体的に楽しみながら学ぶ様子が伝わってきました。今後もヨガの要素を取り入れながら、音や身体を使った表現活動を継続していきたいと感じました。

とうきょうすくわくプログラム活動報告

学校法人明泉学園
鶴川フェリシア保育園
東京都町田市三輪町 122-12

【活動のテーマ】

光の探究 1歳児

【活動の設定理由】

光や影の変化や、窓から入る光やライトなどの身近な光に気づくことで、自由な発想力を伸ばしていきたい。

【環境の設定・準備】

カラーフィルター マグビルド(マグネットブロック) ミラーマット ライトテーブル(トレース台)
ミラーボール パーテーション ロールスクリーン(光を遮る) 懐中電灯

【活動スケジュール】

- 1月 カラーフィルターを使ってみる
- 2月 ライトテーブルの上でマグビルドを使い遊んでみる
- 3月 ミラーボールとミラーマット、ライトテーブルとマグビルドで遊んでみる

カラーフィルターを使ってみる

カラーフィルターを準備し、子ども達がどのように使うのかを見守りました。カラーフィルターを陽ざしにかざしてどのように見えたかを確認したり、カラーフィルターを重ねてどんな色に見えるか観察したりしました。また、カラーフィルターを遠くの白い壁にかざして光を反射させて光の動きも観察しました。

カラーフィルターを準備し、陽が差しこむ保育室で活動しました。



カラーフィルターを覗きながら、様々な物を見ています。



白い布にカラーフィルターを近づけ、自然光を通してどのように見えるか確認しています。



にげないで

壁に反射している光を目で追っています。



自然光があたり、玩具の影ができたところをカラーフィルターで見えています。

カラーフィルターを置いておくとすぐに手に取り、虫眼鏡のような使い方で覗いていました。また、カラーフィルター同士を重ねていたため、保育者が「何色に見える？」と聞いてみたところ、上に重ねたカラーフィルターの色をそのまま答えていました。

ライトテーブルの上でマグビルドを使い遊んでみる

ライトテーブルとマグビルドを用意してから遊んでいく。初めての遊びだったため、遊び方の様子を観察しました。遊び方に戸惑っていたので形や色を子どもたちに聞いてみて遊びが発展するように声掛けをしました。

ライトテーブルとマグビルドを準備し、保育室の照明を落として活動しました。

ライトテーブルの上にマグビルドを乗せ、光を通して見せる色を確認しています。また、マグビルドを重ねて何色に見えるか保育者に聞かれて答える姿も見られました。



むらさき



マグビルドの使い方に慣れてくると箱のようなものを作り下からの光をじっと見つめて

初めは、何をしたら良いのかわからない様子だったのでマグビルドの形や色を聞くと知っている形や色を答えながら、自由に形を組み合わせ子どもなりに表現をして楽しんでいました。マグビルドの使い方に慣れてくると箱のようなものを作り下からの光をじっと見つめていました。色が綺麗に見えるのでパーツごとに並べて、友だちにも色を伝えている姿が見られました。色を重ねてどんな色になるか「なにいろ？」と保育者に聞いてくる姿もありました。

ミラーボールとミラーマット、ライトテーブルとマグビルドで遊んでみる

ミラーマット、ミラーボール、ライトテーブル、マグビルド、懐中電灯、小型のパーテーションを準備し、夕方の日が暮れた保育室で照明を落として活動しました。

ミラーマットで遊んだ後、照明を落として懐中電灯の光を反射させて遊んだり、ミラーボールの光を壁に映したりして遊びました。また、ライトテーブルの上にマグビルドを組み立てて遊び、色の具合も楽しみました。



ミラーマットに懐中電灯の光をあてたため、保育者が「映っているよ」と声を掛けると、懐中電灯を早く動かしながら光の動きを楽しんでいました。



ミラーボールの光が床に映し出され、保育者が「こっちにもあっちにも光があるね」と指で示すと光を踏んだり、追いかけたりする姿が見られました。



ライトテーブルの上をパーテーションで区切ることによって、隣の光の影響を受けず、集中して取り組む姿が見られました。



壁に丸く模様が浮かび上がると「まる」と発言し、丸の大きさが変化すると「おおきまる」と言っていたり、光の行方を追ったりする姿が見られました。ライトテーブルにマグビルドを重ねて、保育者が「何色に見える」聞くと「あお」と答えており、保育者から見ると紫に見えましたが、子どもからは青に見えたのか、あるいは知っている色を答えていたようにも見えました。



【保育者の気づき】

保育者が予想していなかった変化を楽しんだり、遊び方を工夫したりする姿が見られていました。活動を通して、子どもたちは陽の光が当たることで形や影ができることに興味を持ち、透けた素材を通して見える色や景色の変化を楽しんでいる様子が見られました。

反射した光や、壁に映し出された光が動く様子に対しても、不思議さやおもしろさを感じている姿が印象的でした。また、透けた素材の元の色と色を重ねたときの違いに気づくことは少し難しかったようですが、さまざまな角度から光を試してみようとする姿勢が見られました。

探究の中では、保育者が予想していなかったような変化を見つけて楽しんだり、遊び方を自分たちで工夫したりする様子もあり、子どもたちの主体的な学びや創造的な姿が感じられる活動となりました。